

江戸にまなび
音と言葉のあわいをえがく

淡座は、現代音楽、クラシック音楽、日本の芸術文化を行き来し、文化の古今と東西をつなぐことを目的とした、クリエイショングループです。

「事始め」とは、物事にはじめて手をつけること、手始めといった意味です。

旧暦では、お正月に神様を迎える為の一連の行事が終わり、春をむかえ、人の日常生活や農作業の始まる二月八日を、「事始め」といったそうです。

事始め
二〇二三

演奏曲

桑原ゆう 編曲

編曲初演

端唄「花は上野」

HANA WA
UENO

へ花は上野か そめいのつつじ 今日か明日かと

ひぐらしの 君におおじのきつね

あなからいろはの女郎衆にまねかれて

うつらうつらとだいて

根岸の身がわり地蔵を横に見て

吉原五丁廻れば 引け四つ過ぎには間夫の客

あがりやんせ

上野、染井、明日か（飛鳥山）、日暮らし（日暮里）、王子、根岸、吉原と、花の名所をめぐる唄。

桑原ゆう 作曲

初演

「十二支音考」

子の曲丑の曲寅の曲卯の曲

「事始め二〇二〇」から始めた十二支を音楽にしていきたいと思います。今回は二〇二〇年以前の事始めですので、開催がかなわなかった丑年の曲から一挙に新作初演となります。

《子の曲》は、三味線の効果音的奏法「アテハジキ」を

ねずみの鳴き声に見立てた作品。《丑の曲》では、萬葉集にわずか三首しか見当たらない、牛を詠んだ歌のひとつを朗々と唄います。《寅の曲》は、虎の多面的キャラクター性を、同時性のもとに表現します。《卯の曲》には、

良寛の長歌『月の兎』の一節を用いました。

中田喜直 作曲

桑原ゆう 編曲

雪の降るまちを

IN THE
SNOWY TOWNJYUNISHI
ON-KO

内村直也作詞、中田喜直作曲のお馴染みの歌を、都々逸の手、ショパンの『幻想曲』、特殊奏法のノイズ等、すべてを一緒にした、淡座らしい編曲でお聴きください。

端唄「浅草参り」

ASAKUSA
MAIRI

へ浅草参り 蔵前通れば おこもがせがむ

つくなくつくなくえつくなく おくんさない

有るのないのと おっしゃるような 御人体じやない

長井兵助居合抜き成田八幡駒形や

そこな雷門で 飛んだり跳ねたり踊ったり

おもちゃ仲見世五十軒 ござれまいりましよ

御本尊へ参詣して あとは奥山見物

こんこままわし めめきはやして 花やしき

長唄『越後獅子』の替え歌による端唄です。つぎに演奏する『越後獅子幻想』と、聴きくらべてください。

桑原ゆう 作曲

越後獅子幻想

ECHIGOJISHI
FANTASY

淡座十八番の一曲。古今亭志ん輔師匠の出囃子である長唄『越後獅子』から、音の素材や主題を引用し、それを様々に変奏、展開して作曲。いわば、日本の唄を西洋音楽的書法でリコンポーズした作品です。

桑原ゆう 編曲

端唄「年中行事」

NENCHU-
GYOJI

これも淡座十八番の一曲。日本の風物詩や縁起物、伝統行事、風習などを、年始から順々に唄って一年をめぐる端唄です。

淡座版は、「年の始めのためしとて」という歌詞でお馴染みの唱歌『一月一日』が、古典派クラシック音楽風に奏されて始まります。『一月一日』の旋律は曲全体にわたって変化しながら何度も現れますが、他にも、耳馴染みのある日本の歌やクラシック音楽の旋律が、『年中行事』の歌詞の内容とその季節にオーバードラップするように織り込まれています。

EDO X
NEW
MUSIC

事始め 二〇二三

とき 2023年2月19日 18:00開場・18:30開演

ところ お江戸上野広小路亭

東京都台東区上野1丁目20-10 上野広小路ビル



淡座

AWAIZA

ヴァイオリン

三瀬 俊香

チェロ

竹本 聖手

唄・三味線

本條 秀慈郎

作曲・編曲

桑原 ゆう

宣伝美術／桑原ゆう
主催／一般社団法人淡座

2023年6月24日 ㊦

於 深川富士見 東京都江東区古石場 2-18-5

屋形舟を貸し切り、三味線、ヴァイオリン、チェロで「流し」ながら江戸の名所をめぐる、粋な船遊び。

第一夜：2023年12月26日 ㊦

ゲスト出演／古今亭志ん輔（落語家）

第二夜：2023年12月27日 ㊦

ゲスト出演／本條秀太郎（三味線演奏家）

於 深川江戸資料館小劇場 東京都江東区白河1丁目3-28

メール お問い合わせ ▶ info@awaiza.com

お電話

080-4091-6491

今後の公演予定

川開き

淡座二夜